



井上敬資 (INOUE, Keisuke)

研究員

修士 (農学)

- 1977 宮城県仙台市生まれ
- 2003 京都大学大学院農学研究科 修了
- 2003 農業工学研究所 採用 広域防災研究室配属
- 2005 農村総合研究部 広域防災研究チーム
- 2011 施設工学研究領域 広域防災担当



地盤物性のデータ計測

研究者の横顔

<現在の研究テーマ>

大規模な地震によって農地斜面やダム・ため池の堤体に亀裂が生じることがあります。亀裂箇所は強度が低下しており、そのままに放置すると2次被害を引き起こす可能性があるため、早急に亀裂範囲を把握する必要があります。また、亀裂範囲を早く正確に知ることができれば、復旧対策の効率的な実施につながります。現在、地表から地盤内部の情報を取得する物理探査を用いた手法を開発しています。具体的には、地表面から地盤に電流を流し、地盤内に発生する電位差から比抵抗分布を計測・解析することで、比較的短時間で地盤に生じた亀裂等の範囲を把握します。観測できる情報の高精度化にむけて研究開発を実施しています。



現場測線設置

<今後の展開>

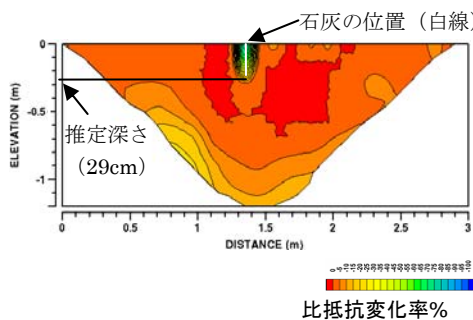
探査によって求められた地盤内情報をもとに斜面の危険度評価を行い、地震被災に関する防災対策の提案につながる研究を行なっていく予定です。

<その他>

年に1度、秋田で行われる100キロチャレンジマラソン大会に参加しています。午前5時にスタートし、午後6時までにゴールする峠越えの難コースに約千三百名が挑みます。途中で苦しくなっても、5km毎のエイドステーションで提供される秋田の美味しい食べ物、美しい自然、温かい人達との交流が楽しくてやめられません。研究テーマの追究は、過酷なマラソンに似ていると思います。道のりはハードでも、その進行過程で得られるであろう研究成果に喜びを見出しながら、コツコツと研究に励んでいきます。その先にある、安全安心で魅力的な農村地域をしっかりと技術サポートするという目標達成(ゴール)に向かって頑張りたいと思います。



模型実験



探査による推定